

教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

エペソ人への手紙一章二三節

2016(28)年 週 報

2月 7日

「心の優しい人」

第5聖日

第3441号

聖
言

お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。 エペソ4：32

礼拝の恵み 第二二章
第十部 礼拝の効果
礼拝の意義、重要性・権威・対象・土台・力・仕方・障害・場所と論じてきたので、結論として礼拝の効果について考えて、この研究をおわりたい。

礼拝の結果は偉大であつて、神、信者、集会、未信者におよぶ。

第二節 信者は祝福されるであらう。

礼拝は礼拝者に喜びをもたらすばかりでなく、礼拝は礼拝者の魂に深い満足を与える。これは自己満心の優しい人足の正反対である。自己満足は自分のことをひいきして考える結果として生じる。その適例はパリサイ人の祈りである（ルカ一八ノ一、一二）。礼拝は魂を神に一杯にする。そして神のみまえて時を過ぎた信者は「彼らはあなたの家の豊かさを心ゆくまで飲むでしょう。あなたの楽しみの流れを、あなたは彼らに飲ませなさいます。いのちの泉はあなたにあり、私たちは、あなたの光のうちに光を見るからです。」詩篇三六ノ八、九。という言明が真理であることを証しする。神の恵みの新しく生かす力を体験した人は、この地上の「こわれた水ため」では決して満足しないであらう。（APギブス「礼拝」より）

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一六年一月三一日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「聖霊の証印」

「神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。」

(エペソ四ノ三〇)

祈り

一月も最後の日が聖日です。あちこちで召されたという声が届きます。死を覚えて生きなさい、とあるように、日々死と隣り合わせに生かされていることを自覚して、無駄のないように、感謝と喜びに満ち溢れるようにしてください。

人を生かす言葉をかたるようになるためにはいつも神様の言葉をきいていなければなりません。聖霊を悲しませてはいけません。「箴言一五ノ二三」時宜になつたことばは、いかにも麗しい。「二五ノ十一」時宜になつて語られることば銀の彫り物にはめられた金のりんごのようだ。」。日常の会話において、どれだけ人を生かす言葉をかたっているだろうか。神様は目と耳と鼻は二つで、口は一つにしておられるのは、よく耳と目と鼻で確かめ、二枚舌を使わないためである。死を前提にした言葉には力があります。集会で一人の人が「次の集会には来られないかもしれないかもしれません。これが最後の証しになると思います。」と神の恵みを語りました。そうすると、集会の雰囲気ガラッと変わったのです。なぜなら、彼はホスピス病棟から参加した末期がん患者でした。死

を前にした人の言葉は力があります。聖霊を悲しませてはいけません。贖いの日のためには聖霊の現在における内住は、クリスチャンが最終的に完全に受ける永遠の命と相続財産の証印であり、保証である。また、このことを瞑想することによって、キリストは聖なる生活を送るように導かれる「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだあきらかにされています。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。キリストに対する望みをいだく者はみな、「キリストが清いように、自分を清くします。」(一ヨハネ三ノ二、三) またここには、聖霊が贖いの日のために、クリスチャンを聖霊の保証のもとに聖く保つ、という聖霊の働きが示されているように思われる。先週は悪魔に機会を与えてはいけません。でした。本当に悪魔は巧妙です。憤り、情欲、あらゆる手段をもって、信仰を無くさせよとします。今日は神の聖霊を悲しませてはなりません。とあります。なぜならあがないの日のために聖霊によって証印を押されているのです。贖いとは買い戻されるということです。日本ではなじみが薄いのですが、例えば、自分の大切な車が中古センターに販売されていて、ただでは返してくれない。自分のものでありながら、お金を払って買い戻さなければならぬ。という意味である。わたしたちが完全に神様のもとに買戻されるために。聖霊の証印を押されているのです。「私が贖います。」と手付け、神の聖霊が証印してくれて

います。神以外は、贖いできません。ちゃんと証印を押しているのです、だれも持っていくことはできません。そのような立場であるので、聖霊を悲しませるような言葉や行動をしてはいけません。怒り、情欲、悪魔は私たちの一番弱いところをしつっている。また、親を当てにして仕事をしない子ども、人をあざむいて収入を得る人間。宗教の皮をかぶり、あくどいことをする者。イエス様を十字架につけた宗教家。パウロは教会から謝礼をもらわず、天幕を作って生活費を稼いだ。

二〇一五年一月六日午後七時 祈祷会 山本牧師

「壁に現れた人間の手」(ダニエル連講第六回)

「すると突然、人間の手の指が現れ、王の宮殿の塗り壁の、燭台の向こう側の所に物を書いた。王が物を書くその手を見た時、王の顔色が変わり、それにおびえて、腰の間接がゆるみ、ひざはがたがた震えた。」(ダニエル五ノ五、六)

ベルテシヤツアルの父はナボニドスの父はネブカデネザルである。この時は王子であった。千人の貴人を招き、大宴会を開く。大バビロンを誇示するが、権力の衰退に至る。ことわざにも初代が築き、三代目が潰す、とある。こともあろうに祖父ネブカデネザルがエルサレムより略奪した金、銀の器を用いて酒を飲み、偶像を礼拝した。歓楽極まり哀愁が満ちる。「その時、宮殿の白壁に手が現れて字を書く。それを見たベルテシヤツアルは腰を抜かし、震えだした。世界の混乱に神様は突然世界に介入して、壁に字を書かれた。今も心の壁に神は言葉を書いて、警告してくださる。

超高齢社会に生きる

普通に生きるにも厳しい時代、ここにこそクリスチャンとして証しする機会となります。逆境をチャンスに変える。主は盲人に対して、因果報恩の思想で見る弟子に対してこの人の上に神の業が現されると、不自由は不幸でないと言われました。ここに高齢社会に生きる秘訣が隠されている。高齢は不幸ではありません。不自由と弱さのなかに神様の存在と恵みが溢れてくるのです。教会に来ると元気を貰って帰られます。それは信じる人のなかに聖霊がお宿りになられるからです。社会に出て一週間、働き、丁度、航海を終えた船が入港して、整えられるように、クリスチャンも礼拝において、神と主イエス様の生命をいただくのです。